

元ソフトボール女子日本代表監督の宇津木妙子さん(61)が、競技を通じた地域活性化などを目指すNPO法人「ソフトボール・ドリム」を設立して全国を駆け回っている。

スタートは東日本大震災の直後の2011年6月。活動理念には、競技の普及、振興に加え、東北地方の復興支援も明記した。「笑い声がグラウンドにこだまする日を一日も早く取り戻してほしい」と意気込む。

昨年末、NPO宛てに、被災地の保護者からメールが届いた。「津波でグラウンドを失った少女たちに、

ソフト復活で東北支援

宇津木 妙子 さん



思い出に残る大会を開いてやりたい」。思いに応え、今年3月29日には「宇津木妙子杯争奪第一回三陸沿岸中学校女子ソフトボール大会」の開催にこぎ着けた。少女たちと交流しながら、思いを強くしたという。「子供に夢を持ってもらうには、『五輪』という目標が必要。そのためにできることは何でもやる」。20年東京五輪での復活を目指し、先頭に立って活動していく。(文と写真、佐野司)

